

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	女 50代	大腸内視鏡 検査 (再生不良性 貧血, 骨粗鬆 症)	75mg 1日間	<p><b>腸閉塞</b></p> <p>投与7日前 排便時に新鮮下血を認め, 当科を紹介受診された。排便があり, 便秘の増悪がないことを確認した上で, 下部内視鏡検査の前処置として本剤処方となった。</p> <p>投与日 大腸検査前処置のため, 自宅で本剤(75mg/10mL)を服用。夜間から気分不良, 嘔吐出現。</p> <p>投与1日後 午前, 呼吸困難あり。救急搬送。腹部膨満, 右下肢痛, 腰痛を訴える。 午後, レントゲン検査にて腸閉塞と診断。胃管と下部内視鏡下に経肛門的イレウス管挿入。 夕方, 意識低下, 血圧低下により人工呼吸管理, 塩酸ドパミン投与を開始。</p> <p>投与2日後 早朝, 心肺蘇生術施行。 正午頃, 死亡確認。</p> <p>病理解剖診断</p> <p># 1. 閉塞性大腸炎を伴う急性腸管壊死: 回腸(一部) ~ 結腸 ~ 直腸( # 2. による)</p> <p># 2. 直腸癌(5 × 3 × 3cm, 中分化腺癌): 転移なし</p> <p># 3. 全身性出血傾向</p> <p># 4. 動脈硬化症</p>	企業報告
併用薬: 塩酸セトラキサート, 酢酸メテノロン, フロセミド, スピロラクトン, プレドニゾロン, 塩化カリウム, ロキソプロフェンナトリウム					

注) 症例No.1については, 本剤と腸閉塞との因果関係は否定できないが, 本剤と死亡との因果関係は認められないものと評価されている。

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	備考
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	男 50代	大腸内視 鏡検査 (大腸 癌,腸閉 塞)	75mg 1日間	<p><b>腸管穿孔</b></p> <p>投与11日前 腸閉塞にて入院。イレウスチューブを挿入,絶飲食,中心静脈栄養を行い,症状軽快を図る。いったん症状は改善。</p> <p>投与日 腸閉塞の原因検索のため,下部消化管内視鏡を予定し,前処置として本剤(75mg/10mL)を投与した。</p> <p>投与1日後 早朝,嘔気,嘔吐,腹痛が出現。著明な炎症反応及び代謝性アシドーシスを認めた。腹部CTで腹水,free air,肝内門脈内のガス像が認められた。夕方,緊急手術施行。便臭を伴う暗赤褐色の腹水と回腸末端付近からS状結腸までの広範囲腸管壊死,S状結腸に穿孔を伴った腫瘤を認めた。壊死腸管の切除施行。その後エンドトキシン吸着治療法を含めた集中治療,腹腔ドレナージ,抗生剤投与により症状は消失した。</p> <p>投与62日後 回復退院。</p>	企業報告

併用薬: アミノ酸・糖・電解質, 塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤, 高カロリー輸液用総合ビタミン剤, ダイズ油